



# ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他 ( 畜産ジャーナル )

2020 年 12 月 18 日 担当者: 椎野

## 油脂各社第2四半期減収減益、原料急騰で一段と厳しさ増す

コロナ禍によって、加工油脂、製油各社とも業務用の販売数量が大幅に減少。このため、第2四半期決算は一部を除き、減収減益を余儀なくされた。9～10月と感染者数が落ち着き、政府のGO TOキャンペーン効果もあって外食や土産菓子需要は持ち直しの動きを見せたものの、11月以降は第3波の様相を呈し、需要環境は再び暗雲が立ち込めている。そこに追い打ちをかける格好となるのが原料相場の高騰。米国大豆、カナダ菜種、マレーシア・パーム油はいずれも急騰しており、それぞれ4年ぶり、7年ぶり、8年ぶりの高値圏に位置している。1～3月以降の原料コストは大きく跳ね上がる見通しで、各社の採算を圧迫。このまま原料が高止まりするようだと、コロナ禍ではあるが「業務用缶詰を含めて、価格改定に向かわざるを得ない」(製油筋)としている。加工油脂各社においても同様で、主力原料のパーム油がここまで高騰すると、「製品価格に転嫁するしかない」と苦しい胸の内を明かしている。

大手加工油脂各社の2021年3月期第2四半期(ミヨシ油脂は20年12月期第3四半期)決算のうち、

食品部門の営業利益は、ADEKAが2億5700万円で同41.4%減。ミヨシ油脂は500万円の損失で赤字に。不二製油グループ本社ではとくに、乳化・発酵素材事業が落ち込んでおり、8億2900万円で同57.4%減。製油大手2社では、日清オイリオグループはマレーシア子会社のパーム油取引の時価評価の影響で増益も、国内油脂事業は厳しい状況。Jオイルは3割を超える営業減益となっている。

11月以降はコロナ第3波の様相。自治体による飲食店の営業時間短縮要請も相次いでおり、需要環境は再び不透明感が増してきた。厳しさに拍車をかけるのが原料相場の高騰。中国の旺盛な買い、南米の乾燥懸念でシカゴ大豆相場は11月末現在で11ドル超えと約4年ぶりの高値。マレーシア・パーム油もラニーニャによる多雨、コロナ影響による農園労働者不足を背景とする減産懸念で先物相場は3300リング超えに上昇、こちらは8年ぶりの高値圏。販売数量の減少が収益悪化に直結する中、原料高騰が油脂各社に重くのしかかってきた。下期も予断を許さない状況が続く。

# ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他 ( )

2020年12月2日

担当者: 若崎

2050年排出ゼロ

## 「エネ産業の役割大きい」 CO<sub>2</sub>フリー燃料に意欲

石油連盟の杉森務会長（ENEOSホールディングス会長・グループCEO）は17日に開いた定例会見で、経済産業省の総合資源エネルギー調査会資源・燃料分科会に出席し「業界としてカーボンニュートラル実現に取り組むことに加え、エネルギー政策における石油の位置づけを明確にしてほしいとの意見をあげた」と報告した。

### 石連 杉森会長会見

「2050年カーボンニュートラル」に対し、杉森会長は「エネルギー産業の役割は非常に大きく、真剣に取り組まなければならない」と業界の向き合い方を説明。2019年に策定した「石油産業の長期低炭素ビジョン」について「2050年カーボンニュートラルを受けた見直しが必要」と強化に着手することを表明した。

クルマの電動化を目指す流れが急速に強まっている点については「石油業界の中長期需

要予測にもすでに織り込んでいく」と冷静に述べ、2030年代半ばに新車販売が禁止されても、ガソリン需要はなくなるわけではない。われわれはいかにガソリンをCO<sub>2</sub>フリー化するか、また合成燃料の研究にも注目している」と、CO<sub>2</sub>フリー燃料への取り組みに意欲を示した。

さらに「ガソリンでも水素でも電気でも、燃料供給場所としてSS網を充実していかなくてはならない。2030年代半ばにすべて

測した。

原油市況は①各国の新型コロナウイルス感染拡大とワクチン開発・普及動向②OPECプラスの協調減産に関する意思決定③米国の原油生産量を注目材料にあげ「当面のドバイ原油は50ドルを超えて展開するのではないかと、40ドル台としていた前月までの予想を引き上げた。

カーボンニュートラルへの向き合い方を説明する杉森会長





## 原油先物は7週続伸、コロナワクチンの展開好感

〔18日 ロイター〕 - 米国時間の原油先物価格は、9カ月ぶり高値に上昇した。週間でも7週連続の上昇。新型コロナウイルスワクチンの展開やドル安が背景。

米ファイザーが18日、日本におけるコロナワクチンの製造・販売承認を厚生労働省に申請したと発表。またペンス米副大統領は、米モデルナのワクチン緊急使用がこの日のうちに承認されると述べた。

清算値は、北海ブレント先物が0.76ドル（1.5%）高の1バレル＝52.26ドル。一時は3月以来となる52.48ドルを付けた。

米WTI先物は0.74ドル（1.5%）高の49.10ドル。一時は2月以来の49.28ドルまで上昇した。

ドルはこの日小幅に反発したが、なお2年半ぶりの安値水準で推移。ドル安になると、ドル以外の通貨を扱う買い手にとって原油など資源価格が割安になる。